

ハスモンヨトウとオオタバコガが増えています

1 対象作物 野菜類(イチゴ、アブラナ科野菜)

2 対象病害虫名 ハスモンヨトウ、オオタバコガ

3 発生状況

(1)ハスモンヨトウの8月第4半旬～9月第3半旬の県予察圃(松阪市嬉野川北町)におけるフェロモントラップ誘殺数(1511頭)は、平年(895.4頭)に比べ多い状況にあります(図1)。

(2)オオタバコガの8月第4半旬～9月第3半旬の県予察圃(松阪市嬉野川北町)におけるフェロモントラップ誘殺数(141頭)は、平年(15.8頭)に比べ多い状況にあります(図2)。

(3)巡回調査(9月第2週)では、イチゴ苗、冬キャベツ、秋冬ハクサイでハスモンヨトウやオオタバコガの幼虫の発生が確認されており、注意が必要です。

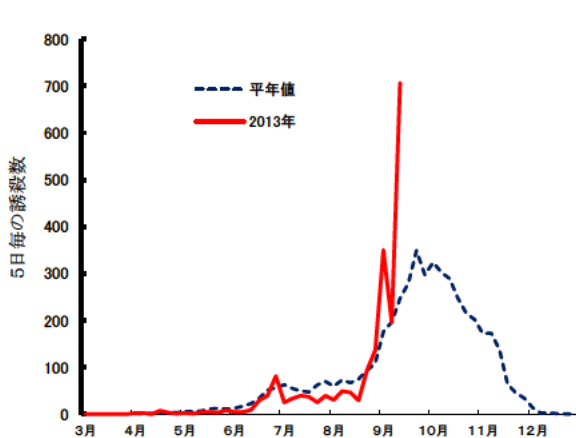


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫誘殺消長

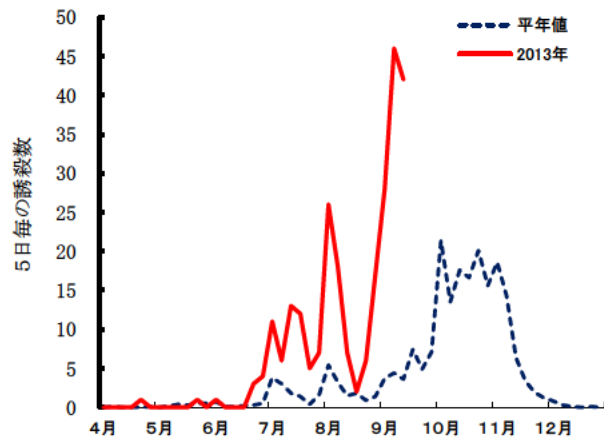


図2 フェロモントラップによるオオタバコガ成虫誘殺消長

4 防除上の注意事項

- (1)老齢になると薬剤の効果が劣ります。またオオタバコガ幼虫は作物内に食入し、薬剤がかかりにくくなるので、圃場をよく見回り発生に注意し、若齢幼虫のうちに防除してください。
- (2)同一系統薬剤を連用すると、薬剤抵抗性を獲得しやすいため、異なる系統薬剤をローテーション散布してください。
- (3)必要な場合は展着剤を加用し、薬液が裏面にもよくかかるように、ていねいに散布してください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。